

アッシュ・チルドレン (ash children)

構成・脚本 北村 想

登場人物は、16歳〜35歳までの（ある程度サバよんでもいいけど）男女で国籍は問わないが、日本語を解することの出来るものとする。タイトルの示すとおり、登場人物は実年齢にかかわらず子供たちということになっている。出演者数は7名〜8名あたり。

それぞれに名前はつけない。

というのは、誰がどのせりふを発するかを、稽古現場で決めようという試みだからだ。

この公演はSLFFT／Nの発表公演ではナイ。このような演劇を勉強しながら舞台にしてみようとする行程だ。

舞台は、フラットで、客席を観上げる感じになる。逆にいうと、観客は、舞台を観下ろすことになる。

というのも、このmessage性の強い演目は、私たちからのmissionやcommandを伝える、という性格のものではなく、私たちの願いと祈りを伝えるからだ。

舞台には、細い円筒形の柱 (pole) が数本立っている。他に装飾はナイので、poleは色分けしてあってイイ。また、垂直のものと、傾斜しているものがあってもイイ。

序曲 (opening standby) 『スラブの娘の別れ』が流れて幕開き。

ものみな歌で始まる。

まずは合唱。序曲でも流れたロシアの行進曲『スラブの娘の別れ』を原曲（おそらく多少編曲された）としたものに、歌詞をつけた。

（こういう行進曲の歌詞は、通俗的なほうがイイ。覚えやすく、歌いやすい）あえて、歌唱指導はおかないことにする。それぞれの思いで歌えばイイと思うからだ。

『ash children opening Thema song』

わいくぞ うみの かなたまで

われら 灰のものよ

たとえ 命 つきはてて

みらい 消えさりても

さあ ただ前をみつめて 行け

夢 やぶれても

風はそよぐ 雲はとぶ

永遠のはて までも

道とおく こころいたみ

声はかれて 血を吐きながらでも

たおれしものたちよ

のばせ その両手を 遠く
われら 灰のものよ
たとえ 命 つきはてて
みらい 消えさりても
風はそよぐ 雲はとぶ
永遠の はてまでも

さあ ゆかん ゆかん
たおれしものたちよ

抱（いだ）け その胸に さあ
われら 灰のものよ
たとえ 愛が消えさりて
恋を失うとも
たおれしものたちよ

叫べ そのコトバをすぐ
われら 灰のものよ
たとえ 声はとどかねど
みらい みえぬとも
さあ ただ きみを信じていま
うらぎられたとても
われら 灰のものたちよ
最後の希望たち

いざ ゆかん いざゆかん
われら 灰の
灰のこどもたち 灰のこどもたち

まず、ひとりが発する。

○good morningI

次ぎに二人、三人と増えてゆき、やがて全員がそのコトバを同時に発する。

○good morningI

ここからは割りせりふになる。

○ボクたちはここに集ったひとびとのすべてを愛しています。

○まず、「ウォール街を占拠せよという」という運動の話をしましょう。この活動は2011年9月17日よりアメリカ合衆国ニューヨークのウォール街において発生しました。ウォール街を占拠せよ、このコトバは、アメリカの経済界、そうして政治に対する一連の抗議運動、それを主催する団体名であり、その合言葉です。

○“We are the 99%”がウォールストリートを占領せよの参加者たちのスローガンです。

○1970年代から、アメリカ合衆国において上位1パーセントの富裕層が所有する資産が増加し続けました。

○米議会予算局による統計でいいます。1979年から2007年の間に、アメリカの上位1パーセントの収入は、平均すると275パーセント増加したのです。同じ期間に60パーセントを占める中間所得層の収入の増加はたった40パーセント、下位20パーセントの最低所得層ではわずか18パーセントの増加に留まっています。1は275、60は40、20は18。

○1979年と比較して、下位90パーセントを占める世帯の平均税引き前収入が900ドルも低下しているのに比較すると、トップ1パーセントの収入は、700、000ドル以上増加しているのです。

○1992年から2007年にかけて、合衆国における高額所得者の上位400名の収入はおおよそ倍上昇していながら、平均税率は逆に37パーセント低下しているのです。

○2007年において、最も裕福な1パーセントの人間が、合衆国の全ての資産の34、6パーセントを所有しており、次の19パーセントの人間が50、5パーセントを所有しているです。

○このスピーチを始めたのは、ジャーナリストのナオミ・クラインです。10月6日のリバイ広場でのスピーチでした。

○リバイ広場では、ラウドスピーカーは禁止でした。ですから彼女は人間マイクロフォンという方法をとりました。さっきのI Love you.のように、声を次第に大きくしていったのです。私の声をあなたから他の人たちへと伝えていってください、もっと大きな声で。と、彼女はそういいました。

○彼女はつづけます。昨日のことです。労働者のデモで講演者の一人がこういいました。

「我々はお互いを見つけたのだ」。この感想は、今まさにここで行われているものの美しさを捉えています。それは、より良い世界を望むすべての人々がお互いを見つけるための、大きく開かれた空間です。それは、どの空間も収容することができないほど大きなアイデアです。私たちはいまここで、大きな嬉しさに包まれています。

○私が知っていることが一つあるとすれば、1%の富裕層は危機を弄んでいるということです。この経済危機の最中、これが世界中で起こっている真実です。

○彼らのこの戦略を防ぐものはたった一つでした。しかし幸いにもそれはとても大きなものでした。それは残りの99%だったのです。

○「ウォール街を占拠せよ」は、標的を選びました。私たちはここでの自分たちの存在に、終了期日を設けていません。これはずいぶんと賢いことです。私たちがとどまり続けるその間だけ、私たちは根っこをのぼしていくことができるからです。あまりにも多くの運動が美しい花々のように咲き、すぐに死に絶えていくのが情報化時代の現実です。なぜなら、それらは土地に根をはっていないからです。そうして、それらはどうやって自分たち自身

を維持し続けるかについて、長期的な計画を持っていないからです。だから嵐が来た時、それらは流されてしまうのです。

○この運動は、正しい行いをしています。私たちは、非暴力であろうと決心しています。私たちは、メディアが切望している壊れた窓や通りでの乱闘のイメージを与えることを、拒否します。その驚くべき約束は、いくどとなく警察の恥ずべき不当な暴力を受けるという結果を引き起こしています。それがちょうど私たちが昨晩に多く目撃したものです。しかし、一方でこの運動への支持は、拡大し続けています。より多くの知恵とともに。

○しかし、十年という時がもたらした最大の違いは、1999年の熱狂的な好景気の絶頂時、私たちは間違った資本主義と対決していたということです。

○十年後の今、もはや豊かな国など、何処にもナイかのようです。ただ、たくさんの豊かな人たちがいるだけです。公共の富を略奪し、世界中の天然資源を使い尽くしながら、豊かになった人たちです。

○私たちの時代の課題は、これをひっくり返すことです。

○私がいつているのは、私たちの社会を統治している根本的な価値観を変えということ

です。
○私はそれをこの広場で起こっていることに見ているのです。互いに食べ物を与えあい、互いに暖めあい、自由に情報を共有し、医療や瞑想のクラスを提供するというやり方の中に。私がここで気に入ったサインは、「私はあなたを気にかけている (I care about you)」です。お互いの視線を避けるように人々を訓練する文化、いかなれば「奴らには死なせておけ」に真っ向から反対する、深く根本的な声明です。

○私たちは、経済的にも政治的にも地球上で最も強力な勢力に喧嘩をふっかけました。それは恐ろしいことです。それはこの運動がますます強力になるにつれて、もっと恐ろしいことになるでしょう。そこには小さな目標へと移行する誘惑があることに、私たちは常に警戒しておくべきです。例えば、この集会でああなたの隣に座っている人に対してです。

○私はくだらないことでいい争うな、とはいいません。しかし今度こそは、これからやって来る長い長い闘いのために、私たちがずっと協力してきたかのように、お互いをとり扱いましょう。なぜなら待ち受けている課題が、まさにそれを要求するからです。

○この素晴らしい運動を、それが世界で最も重要なことであるかのように取り扱いましょう。なぜなら実際にそうだからです。本当にそうなのですから。

○ナオミ・クライン『ウォール街を占拠せよ』より、抜粋、翻案。

○ボクたちは、こういう運動をまったく肯定しているワケではアリマセン。不思議に思われるかも知れませんが、そうなのです。それは、衆を頼むということについて、集団で運動することについて、ボクたちはあまりに懐疑的だからです。ただし、この楽天的にさへ思える集会において、誰か一人、アメリカ合衆国の政治、経済に意識的に深く思案を投ずる者が現れるかも知れない、という、その一点においては、希望を持っていいと思います。

○そういう意味もこめて、この国家、アメリカ合衆国が如何なる理想をもって始まったのか、ボクたちは、次ぎにエイブラハム・リンカーンの演説を対比的に挙げます。南北戦争当時の、有名なゲティスバークの演説です。

音楽、流れはじめて。

○4世代と7年前に私たちの祖先たちはこの大陸に、新しい国を創った。その国は、自由の理念を尊び、全ての人は平等に創られているという命題を遵法していた。

○今、我々は大きな内戦の最中にある。この内戦は、かの国が、あるいはそのような理念され遵法された国が、如何に長く持ちこたえられるものかどうかを試している。

○我々は、その戦争の大戦闘の最中で会している。

○我々がやってきたのは、その国を生き延びさせねばならないとの信念で生命を犠牲にした人々に対して、我々もまた最後の安息の地として戦場を共にするためである。

○我々がかく為すべきであるということは、全く時宜にかなって正義である。

○しかし、より広い意味でいえば、我々はこの大地に捧げることも、神聖化することも、清めることもできない。

○ここで奮闘した勇者たちが、生ける者も死せる者も、この地を神聖化してしまっており、我々の貧弱な能力をもってしては、もはや何かを付け加えたり取り除いたりすることなどできやしない。

○世界は、我々がここであることなどほとんど気にとめないだろうし、それを長く記憶にとどめることもないだろう。しかし、彼らがここで為したことを決して忘れることはできない。

○我々生きる者の使命とは、むしろ、ここで戦った人々がこれまで気高く前進させた未完の仕事に身を捧げるべきであるということか。

○ここにいる我々の使命とはむしろ、我々の前に残されている偉大な任務に専念することである。この名譽ある死者たちから一層の熱意を汲み取り、彼らが最後の完全な献身策を捧げた主義に対し、我々が更に身を捧げるべきであるということか。

○その任務とは、あの死者たちの死を無駄にはしないこと、この国が神のもとで自由の新たな誕生を生み出すこと、人民の、人民の手による、人民の為の政府を、この地上から消え去らせはしない、と深く決意することである。

○リンカーン大統領のゲティスバーグ演説。れんだいこ和訳

音楽、終わり。

○これが、いま、日本という国家がパートナーとしているアメリカ合衆国の始まりの姿です。

○立派ですねえ。

○そう、立派なんですよ。だから、ね。

○だから、ナニ。

○アメリカ合衆国は、自分たちの国家を、いまでも立派だと思ってるのよね。

○世界でイチバン立派だと思ってるんだよな。

○それって、ボクたちは、イチバン駄目なことだと思う。

○（全員が声を揃えて）それって、ボクたちは、イチバン駄目なことだと思っ。

○えーと、日本という国家、ボクたちといまそういういい方をしました。ここでちょっと考えてみましょう。考えるべきは二つです。「日本」とはなんなのでしょう。「国家」とはなんなのでしょう。

○日本は最初から日本という一つの国であったものではありません。いま近畿地方と呼ばれているところだけが、一つの勢力を持った国でした。

○ですから、関東、東北、北海道、南は九州、四国、沖縄はべつの国でした。それに「日本」という国の名前もありませんでした。

○これは、そんなに昔のことではナイのです。

○その頃の中心勢力は、ヤマト地方、現在の京都、奈良、大阪です。

○これらは畿内と称されました。近畿の内側です。畿内の近くが近畿です。どっちが先なんだよ、ワカンネエ。

○ともあれ、日本が一つの勢力によって統治したのは、私たちが歴史で習った鎌倉時代と呼ばれている頃です。それは十二世紀末のことです。

○いまの、中部、関東、東北一円は「東国」といわれていました。それに対して西、つまり「西国」の日本の地域の呼び方は、関西、中国、四国、九州となっています。

○つまり、日本という国も、初めは多くの国が散在していたのが、一つの勢力によって征服されたのです。

○この国の名前が「日本」になったのは、七世紀のことです。それまでは『魏志倭人伝』に出てくる、あの「倭の国」でした。

○日本が日本と名乗るようになったのは、中国大陸の帝国に対しての目下の国であることからの脱却と、対等の国であるということの声明です。

○「日出ずる国」です。これは中国大陸からみればの話です。

○聖徳太子の出した「日出ずる国の天子」というコトバに隋の皇帝は怒ったといわれていますが、これは「日の没する国」といわれたので怒ったワケではナイということは、最近の歴史研究では常識になっています。

○つまり「天子」というコトバに腹をたてたらしいんですね。

○ともかく、日本は日本という国の名前を持ちました。

○ですから、私たちは、七世紀の最高権力者が用いた国号を、なんの自覚もなく、ぼんやりと使っているだけなのです。

○千三百年ものあいだ。

○そんなものに、ボクたちが平伏（ひれふ）す理由なんざ、あるワケありません。

○「愛国心」というものは、けしてそんなものに従うことではナイと、ボクたちはかんがえます。

○ボクたちは思います。ボクたちが愛せる国を創れるのかどうか、ボクたちが愛せる国とというのは、どんな国なのだろう。

○（全員）愛せる国がナイのなら、国などなくてもかまわない。

○さて、次ぎは、およそ、アメリカ資本主義とはまったく逆の位置であるはずの、共産主義の提唱者カール・マルクスの、「人間と自然と経済」についての考え方をボクたちは挙げ

てみることにします。

○およそマルクスは誤解されています。それは彼が、考え方の方法として使った唯物論弁証法というものに対する誤解から始まっています。たぶん、マルクスがまるで人間より経済のほうを優先して考えていたなどというひどいマチガイも多くのは持っています。

○誤解のナイように断っておきます。ボクたちは共産主義に賛辞を述べているのではアリマセン。

○ただ、カール・マルクスの思想、哲学が、理想とロマンにあふれていた、ということだけが伝えたいのです。

短い導入の音楽あつて。

ここは、バックの音楽はナイ。

○カール・マルクス『経済学・哲学草稿』より。

○貨幣は、人間の内なる力が外部に露出した能力である。

○哲学のコトバですからちよつと難しいでしょ。簡単にいえば、貨幣というのは人間の持っている力なんだけど、それが目にみえるカタチになったものだということです。

○すなわち貨幣の買いうるもの、それが、貨幣の所有者たる私が持てる力であり、それが大きいだけ、私の力も大きい。

○だから、たくさん貨幣を持っているひとは、たくさん力を持っているということになります。

○私は何であり何が出来るかは、けつして私の個性によって規定されているのではない。

○つまり、そのひとの人格や個性が、貨幣の量によって決まってくるということです。

○私は醜男である。だが、どんな美しい女も買い求めることが出来る。

○だから私は醜男ではない。

○というのは、醜男のおよぼす、その、おじけさす力が、貨幣によって無効にされているからだ。

○私は悪い。不正直な、良心のない、才智きない人間だ。しかし、貨幣は尊敬される。

○だからその所有者もまたそうだ。

○貨幣は最高の善である。

○だから、その所有者もまたそうだ。

○おまけにこの貨幣の所有者は、才智に富んだものを買求めることが出来る。才智に富んだ人々を支配する力を有するものは、才智ある者より、もっと才智に富んでいるではないか。

○すなわち貨幣は、私のもろもろの願望を、そのイメージから現実のものへと変えることが出来る。

○なんという貨幣の創造的な力。

○人間を人間として、また世界にたいする人間の関係を人間的な関係として前提したまえ、そうすれば君は愛をただ愛とだけ、信頼をただ信頼とだけ、交換することが出来る。

○もし君が芸術を享楽したいと思うなら、君は芸術的教養のある人間であらねばならない。

○もし君が他の人間たちのうえに影響を及ぼそうと思うなら、君は他の人間たちのうえに

ほんとうに刺激的促進的にはたらかけるような人間であらねばならない。

○君の、人間にたいする、そうして自然にたいする関係は、君の現実的な個性的な生き方と、君の意志に呼応して表現されねばならない。

○もし君が愛して、しかも、それに返ってくる愛をよびおこさないとすれば、すなわち、君の愛することが愛されることとしての愛を生み出さないとすれば、もし君が、愛しつつある人間としての君の生き方の表現によって、君自身を、愛されたる人間にするのでないとすれば、君の愛は無効であり、一つの不幸である。

○カール・マルクス『経済学・哲学草稿』より抜粋、翻案。

○貨幣で何かものを買う。これは貨幣とものを交換しているだけです。

○たとえば、千円で買ったものの、原価が半値の五百円だったとしましょう。ボクたちは五百円、損をしているのでしょうか。

○そんなことはありません。五百円まるまるが、売り手の儲けになるはずがありません。そこには材料費もあります。流通費もあります。そうして、売る側のひとびとの賃金となります。それらを差引いて、残りは売り手の資本となります。資本は次の商品をつくるために使われます。ようするに資本は使います。

○ボクたちも資本を持っています。買ったもの、それこそが、資本です。

○資本とするならば、それらは、食料として生命の維持となり、着るものとなって、暑さ寒さから身を守り、書物となって知識を得ることが出来、遊ぶことによって、人生を楽しむことが出来ます。それらは、みんな今日を生き、明日を生きる糧となります。

○それがほんとうの資本です。

○資本とハサミは使います。

○たとえばボクたちは、その資本によって、コトバを創ることも出来ます。

○ボクたちはその例として、さまざまなコトバを追っていきます。まず、俳句と短歌という、短いけれどインパクトの強いコトバを語ってみましょう。

ピアノ・ソロ、あるいはマリンバの演奏の調べ。

○俳句です。三橋鷹女という俳人の句集から。

(注…一句、一句の狭間の時間をタイセツに)

○さやうなら霧の彼方も深き霧

○これは、こんなふうにしたとも思います。

「さようなら霧の彼方も霧深し」

○このホンの作者はこっちのほうが好みたい。

○女一人佇(た)てり銀河を渉るべく

○字余りの出だしだけど、それが、逆に出だしの決意を強めています。

○白露や死んでゆく日も帯締めて

○鷹女の俳句は、女が死ぬことや老いること、無常の寂しさを諦念と覚悟で詠んだものが多いんです。

○わが死後やかくて夜更けの走馬燈

○冬雲の行方を誰が知りませう

○みんな夢雪割草が咲いたのね

○十七文字の中に、なんという悲しさでしょう。そうして、その情景が鮮明なイメージになって読むもののココロにしみ入ってきます。

○孤独なのかしら。

○孤独は、どんなひとにも分け隔てなく与えられている宿命です。

○富むひとと貧しきものも、若いひとと老いたひと、ひとりのひと、ふたりのひと、孤独です。

○でも、孤独とさみしさはチガウ。

○そう、孤独は、狐が独りでいることだ。

○ぜんぜん、チガウ。

○孤独は自己中心、ジコチューなんかじゃナイ。

○孤独はエゴイズムでもナイ。

○孤独というのは、こういうことだと思う。

○どうということ。

○冬、みんなが冬眠している。そんなとき、自分だけふと目覚めてしまった。雪の平原と白夜（はくや）の空だけが自分をつつむ。

○白夜は、夏の現象ですけど。

○それに、いまのは『ムーミン谷の冬』からの影響がモロね。

○まあ、そんな感触ということよ。

○だから、

○さあね。

○次ぎ、すすめます。

○このホンの作者の俳句も一つ、ご披露。

○還暦やいま蜻蛉の七時間

○でした。

○生きてきた六十年は、蜻蛉の寿命の七時間と同じだといっているのでしょうか。

○それとも、残りの人生を蜻蛉の七時間のように充実して生きたいといっているのでしょうか。どちらにもとれます。

○では、次ぎは短歌です。

○短歌、石川美南、夜灯集、夜の灯と書きます。その他より。

（注・俳句とは、一首一首の時間の間隔を違えて。たとえば、次々と、または、一つ一つ）

音楽が変わる。

○噂話は日陰に溜まりひやひやと「花屋は百合の匂ひが嫌ひ」

○どういう意味ですかね。

○この女性歌人の歌は理知的なんですわね。

○これも字余りの始まりですが、それが、噂話というコトバの陰湿さを強調しているみた

います。

○で、一気に飛躍するんだよね。

○加速がつくのよね。

○一読、一見すると、何の関係もナイものが、結びつく。

○この歌は「花屋は百合の匂ひが嫌ひ」というのが、噂話ということになってます。

○これをお芝居の戯曲になおしてみましよう。

○花屋が客にいます。「お客さん、どんな花をお捜しですか」

○「百合が欲しいんだけど」

○「うちには百合はありません」

○「そうか、やっぱり噂どおりだな」

○「他にはどんな噂があるんです、お客さん」

○「その裏口の扉を開けると、砂浜があるらしいとか」

○「なるほど」

○「浜辺には墓地があつて、その向こうは海がみえるとか」

○「お客さん、噂なんて、そんなもんだよ」てな具合ですね。

○いづれ来る悲しみのため胸のまへに暗き画板を抱へていたり

○同じようにお芝居にしてみましよう。

○「おまえは、いつも胸に画板を抱き締めているねえ」

○「ええ、そうよ。もうすぐ恋人が来るから」

○「恋人は」

○「画家よ」

○「絵を持って来るのかい」

○「世界でイチバン哀しい恋愛小説の挿絵をね」

○花びらの残骸積もる路地ありて真昼ちひさき古書店に入る

○「こんなところに古本屋があるとは知らなかったよ」

○「こんな古本屋に来る酔狂な客というのは、私も初めてですな」

○「じゃあ、明日はもうこの店をみつけることは難しいということなのかな」

○「そういうことですな」

○「この店に、毎日来るにはどうしたらいい」

○「簡単なことです。ほら、その、花びらのある路地さへみつければそれでよござんす」

○「その路地をみつけるには、この町の通りを反対側から歩かなければならない。そんなんでしょ」

○「ほっほっほ、よく、ご存知で」、というふうですね。

○空色の胸をかすかに上下させ呼吸してゐき折り紙の犬

○汗ひとつかかずに僕を見つめてる日陰の席の笑顔が祖父だ

○寄せては返す人恋しさよ 上をゆくカモメの腹にへそを探せり

○次ぎは詩を語りましよう。ボクたちはここに、ある劇作家の詩を何編か挙げます。
(それぞれの詩の nuanceをたいせつに)

音楽は、詩によって変わる。歌の順序は変わってもいい。

（リーディングされる詩があってもいい。ひとりがすべてを語る（読む）、複数で読む、一部が複数になる、いろいろと語り方があっていい。ラップのようでもいいし、ゴスペルのようでもいいし、適当に歌ってもいい、Sprechchorのようでもいい）

○title . 1 『それが罪かよ』

愛さへ愛にとどまらぬ

愛することが罪ならば

愛せぬことも罪なりき

愛知らぬことを罪といい

愛さぬことも罪という

愛のワカラヌ罪もある

遠い血よりも近くの他人

それよりもっとすぐそばの友

そばの友より手元の銭と

世間の相場は算盤次第

地獄の沙汰もコネ次第

それが罪かよ 罪ならば

どうこう生きてても バチアタリ

どうこう生きてても ヒトデナシ

愛さへ愛にとどまらぬ

愛さへひとにとどまらぬ

そういう歌を うたってた

そういうひとも いたけれど

ひとを 愛して 死んでった

愛ゆえ愛にとどまらぬ

愛ゆえひとにとどまらぬ

○title . 2 『朝日のあたる部屋』

いつまでつづくのかは知らない

朝は唐突にやってくる

いちにちは朝にはじまり

「繰り返し」の象徴のように

朝日が部屋を訪れる

もう私は若くなることはナイ

きよう壊れたところが 明日治っているワケではナイ
だから 朝は私の命を壊していく 時の進みだ

かつて夜は修復の営みだった

けれどいまは 冬眠の中

ただ独り 目覚めた 北欧の幻のように

この喧騒の街でも 深い静けさが しみ込んでくる

老いたか

老いたろうな

ただ 幸いなことに

かつて若かった日々を懐かしくおもいだすことはナイ

あの若い日々は この先 生きていけるかどうか

そんな不安と それを忘れるための享楽と

宿痾との闘いの 逃走だった

朝日はあのと時も いまも 同じように

遠慮なく部屋へ吹き込んでくる

昨日までのことをすべて

拭い去るには 冷たすぎるが

ともかく いちにちは はじまる

○title・3『秋の「す」のひたぶるにうら悲し』

生ける場所がすけのうなったナア

と今年78歳になる爺さまがいう

テレビがつまらんわ と今年82歳の母親がいう

敬老会にいつても 歌うたわされて チラシ弁当もろうて食べてだけや

ちよつと芸者さんでも呼んできてもろて 酌の一杯で

うまあい酒が呑みたいのう

と 爺さまがいう

こないだは茶碗蒸しがついとったな「す」がはいとったけど

と母親がいう

家におっても ぼーっ、や

外に出ても ぼーっ、や

と爺さまがいう

母親と爺さまは幼馴染みで 年上の母親は むかし

よく いじめられた爺さまの面倒をみたらしい
爺さまは 週に二回 神社の掃除に行く
月に一度 賽銭箱を開けて バラ銭を宮司に渡す
そこから宮司は 500円ばかりを爺さまにくれる
煙草が高うなりよってからに
と爺さまはエンタに火をつける
半ば喫った吸殻は 棄てずに 箱にもどす
これはな 残しといて煙管で吸う
と 爺さまは アッアッアと笑う
アトは死ぬだけやちゅうのになあと
二人は同じことをいう
晩秋の薄陽が 冷たいベンチの二人を
知らん顔して 過っていく
なにごとくも神仏の成せる業だとすれば
あまりにも この黄昏はせつない

「す」だらけの人生の終(つい)には
まだしも温かいのかも知れないが

○title・4『秋のプール』

すっかり ひとけの無くなった 秋のプールは
さざ波もたてずに 沈黙している

夏のあの 中学生の少年少女たちの
嬌声を憶い出しているのでもなく
それらは 水底に深く沈めて
ただ 次の夏への準備のために
人知れず ゆつくりと水流を起こして
母胎の中の水のように 未知の生命を育んでいる

もう その時間を終えた 廃墟の貯水池として
忘却され 失われて
学校という閉ざされた楽園に 静かに潜んでいる

そのようなものなど この世にはなかった
と

子供たちは プールのことなどすっかり忘れ
音楽室で コーラスを歌う
ときおり そのなかのひとりが

何かしら得たいの知れぬ不安におそわれ
コーラスの楽譜を落してしまい 他の生徒から笑われると
そのこは つくり笑いをして
さとられぬように 窓からプールを観る

少女少女の 夏の歴史がひとつ終わった

進化の秋も やがて黄昏に還っていく
未だ水だけを湛えたプールとともに

○title ・5『秋日和』

温かい秋の陽ざしは
偶然の配達員によって届けられる
チャイムが鳴ってドアを開けると
そこに満ち満ちた ぬくもりがあるという 寸法だ

数千年の時をついやして

物語を創らねば

ひとは

神を識ることが 出来なかった

しかし私は ただドアを開けるだけで

そのほほえみを みる事が出来る

配達員が届けてくれたコスモスは

ただ 一輪で花という

何も無いところに一輪の花を置く これを劇という

この秋日和の朝に

偶然の配達員が訪れるところから

劇ははじまる

さまざまな配達員が

今日も 数多の家のドアのチャイムを鳴らす

聞き逃すなかれ 今日のひと

そうして 明日のひと 昨日までのひと

○title ・6『その愛を棄てなさい』

風雨鳴く夜にめざめしきみにいう 我が帆船のタラップはここ

その愛を棄ててしまえよ飢える子に 与えるべきはビスケットなの
彼のひとを奪えし我の恋をいう 盗人（ぬすびと）よりも理は二分（にぶ）多し
聞くがいい

おまえが預けた金銀の 利子が一桁上がるたび
この世界で

飢えた子供が なんのために 泣かなければならぬのか
わからないままに 死んでいくのだ

おまえが合法的に収めなかった税金が 認められるたび
この辺境で

病んだ子が なんのために 苦しまねばならぬのか
わからないままに 死んでいくのだ

私はいつも妄想で 狙撃用ライフルに 弾丸をこめるが
安心するがいい

その弾丸は おまえたちを 撃つためのものではない
おまえたちを赦している 神を撃つためのものだ

いてもいなくても どっちでもいい
いてもいなくても なにもかわらない

ただ いいわけをするためにだけ そのものの 降臨する
その瞬間を待つために 私はいつもスコープを覗いている

そのものが「我は神なり」と 声高になのったそのとき

「もし、おまえが全知全能の神ならば、その愛を棄ててみよ」

と 私の銃弾は そういうだろう

どっちでもいいことだが

きっと そういうだろう

Of title・7『刹那の殺人』

さいしよにひとを殺したとき この世にもうひとり そいつが生まれるような気がした

さいしよにひとを抱いたとき このあたたかみは 拒否すべきだときめた

さいしよにひとを憎んだとき このかんじようは 忘れることができないとおもった

さいしよにひとを泣かせたとき このばしよには もうもどってこれないとうなだれた

さいしよにひとをおどろかせたとき このおどろきは とてもしんせんなものだった

さいしよにひとをすてたとき このキズは しょうがいついてまわるとかくごした

さいしよにひとに愛されたとき このせかいには そんなものもあるのかとあやしんだ

そこで さいしよに しんだいま けつきよくオレが正しかったことは ひとつもナカッ

タのだと気がついた

ところが チガウというオレがいる みんなチガウというオレもいる

けれどそれも刹那のことである みんな刹那のことである

○ash chi Idren、灰の子供たち。ボクたちは汚れたエネルギーには、ほとんど嫌気がさしているんです。灰は熱エントロピーの最後の残りカスです。でも、熱って何なんだろう。

○ボクは、ある中華レストランで、中年の主婦五人が、ランチを食べながら、午前中のパチンコの成果に興じているのを聞いた。今日はどの機種がよく出たか。自分がどの台にどれだけつぎ込んでどれだけ出したか。まるで労働の報告と反省の議論のようだった。けれど、その労働は何一つ生産などしてはいないように聞こえた。その中のひとり、疲れた疲れたといいながら、ラーメンに手もつけず、テーブルにうつ伏していた。きつと貧血を起こしているのに違いなかった。ボクは、そのひとの貧血よりも、きつとそのひとが食べないままで置いて帰るに決まっていた。ボクは、そのひとの貧血より、きつとそのひとが食べたい。ボクはそのひとたちの、大人たちの倫理や道徳に難癖をつけているんじゃないでいいけど、けど、生理的に、生理的に、キモチ悪いんだよなつ、そういうのって。

○えーとですね、統計によるとですね、主婦層がパチンコに使うお金は、一日にひとり4万円から7万円だそうです。これ、平均ね。まあ、紙幣というより、ただの紙。

○で、ゲームに夢中になるのは良くないよ、か。笑うしかナイね。いま一番、ゲームに夢中になっているのは、誰にも相手にされない若者だよ。

○ボクたちは、ゲームしながらつるむからね。コミュニケーションでやつだな。

○もう、ゲームにとにかくいう大人はいないよね。だって、自分たちもゲーム世代なんだから。ドラクエで育ったんだもの。

○びっくりするようなことってみようか。お芝居ってのがあつたら。演劇とかいう、舞台でみせるあれ。いまじゃ、あれは教育に役立つんだって。コミュニケーションの勉強になるんだって。ウソだろ。ボクたちの両親がボクたちのように子供だった頃、あんなものに近寄るんじゃないやせんって、いわれてたって聞いたよ。

○じゃあ、熱って何だろう。あつちからこちに伝わって、伝わると熱くなつたり冷えていたりする、熱って。

○何処かにいま、熱、あるかな。熱、いま何処にあるんだろ。

○だからさ、ボクたちは、その熱すら知らないんだ。だって、灰なんだから。最初から熱のナイ灰なんだから。

○でも、楽でいいじゃない。熱くならなければ、冷めないんだから。最初から灰ならば、燃えなくてもいいんだもの。

○燃えるってどういうことかな。燃え尽きるってどういうことかな。

○あのね、一つだけ、気がついたことがあることっていいかな。

○（他の者）どうぞ。

○燃えるってけして単独の営みじゃナイんだよな。物質と反物質がぶつくとエネルギーが生まれる。水素は酸素ナシでは燃えない。炭素もそうだ。

○だから、仲良くすべきなのか。ケンカすべきなのか。

○融合か分裂か。

○ひとりがいいのか、ふたりがいいのか、たくさんがいいのか。

○ひとりで生きていけるのか。ふたりで生きていけるのか。たくさんで生きていけるのか。

音楽

○聞いてよボクたちの話を 聞き流してくれたっていいんだ

ボクたちが神さまを愛さない そのワケを 试试看ようか

まず 全知全能 完全無欠 そんなものをどうしたら愛せるんだ

そのどこを なにを 愛せばいいんだ

神さまは ボクたちを愛するくらいなら 生きられずに 命終わるもの

死ぬことさへ出来ぬ あなたの創造物を 愛しなよ

ボクたちは 神さまは愛せないけど 隣人は愛せるね

ちっぽけなアパートに 家族で住んで ささやかに 生活している

生活しようとしている 生活したいと望んでいる 隣人

週末には 酔っぱらって 廊下やベランダで 嬌声 怒声 騒いでいる 隣人

息をひそめて 世間さまとやらの 迷惑にならぬように 小さくなってる 隣人

そういう隣人を ボクは愛している

愛するとはどういうことか それはね なにもしないことだと思う

なにもしないことも 互いが生きてイケル そういうことだと思う

だから ボクたちは隣人になにもしない

隣人がボクたちに なにもしてくれなくてもいい

なにもしなくてもいいことほど 大きな愛があるだろうか

なにもしなくとも ボクたちと隣人が生きていけるまで ボクたちは

なにかいっぱい やんなきゃイケナイ かも知れない

けれど 神さまを愛することはできない

そんなことに かまけていられるほどヒトはね ヒマじやナイんだ

貧しきものが幸いで 貧しきものは何一つ持たないものなら

ほんとうの貧しきものは 神さますら 持たないのさ

ボクたちは 灰だ 灰の子供だ

けれど ずっとく

ボクたちは 燃えつきて灰になったんじやナイ

ボクたちの時間は さかさまなんだ

ボクたちは 灰からしだいに エントロピーを減らしていくのさ

だから ボクたちは 灰の子供たち ash childrenなんだ

○今日、ここに集いし人々。おのおのの生活を営むひと。愛しあうひと、憎みあうひと、敵対するひと、守り合うひと、明日も生きるひと、明日の命のないひと、殺し合うひと、命救うひと、りんごを売るひと、さかなを売るひと、歩くひと、走るひと、すべてのひととはみな争います。誤解しあいます。のしりあいます。疑い、妬み、嫉み、傷つけ合います。しかし、それは、目的や結果ではアリマセン。ほんとうの目的は希望の中にしかアリマセン。なにかしらワカラナイ希望の中にしか。だから、いつの日も、どんな時も、僕たちは虞れないでいましょう。たとえ敵がどんなものであれ、僕たちホモ・サピエンスはたった十数万年の歴史しかもたないのです。文化を持ち始めてからも5万年です。そう

して、二度の氷河期を越えてきました。僕たちの祖先は、地球上に1000人足らずにまで減った時もあったのです。だからこういいます。また、逢いましょう。また、逢いましょう。きつとまた逢いましょう。この世の灰となったとしても。ボクたちは灰のようにコトバにはならないものを信じます。しかし、灰のようなコトバもまた信じているのです。だから、また逢いましょう。ゝ

ヴェラ・リンの歌う『また逢いましょう』流れてきて。

2	2	2	2
0	0	0	0
1	1	1	1
3	2	2	2
／	／	／	／
0	1	1	1
3	2	1	0
／	／	／	／
2	1	0	0
0	2	8	6